

「とっとり子育て親育ちプログラム」



ファシリテータ通信

令和3年3月24日

発行：鳥取県教育委員会事務局

社会教育課

地域学校協働活動推進担当

TEL/0857-26-7521

FAX/0857-26-8175



<https://www.pref.tottori.lg.jp/katei/>

私の名前は「ねっこりん」。
みなさんと共に、子育て・家庭教育を支援していきます！！

コロナ禍での家族や社会に対する意識の変化、「新しい生活様式」への対応、ICTの急速的な普及など、この1年私たちの生活を取り巻く環境は激変しました。そんな中、益々家庭教育支援の必要性が高まっています。「切れ目ない、きめ細やかな子育て・家庭教育支援」を合言葉に、保護者が安心して子育てや家庭教育を行うための支援の中核となり、地域に根ざした子育て・家庭教育支援ができる人を養成する「鳥取県子育て・家庭教育支援員養成講座（全4回）」と「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータ養成講座（第4期）兼フォローアップ研修会開催、派遣事業等を実施しました。御多用中、講座・研修会等に参加していただいた皆様、ありがとうございました。

本年度の子育て・家庭教育支援についてまとめてみましたので、今後の活動に生かしてください。

講座・研修のまとめ

◇ 令和2年度講座・研修について

鳥取県子育て・家庭教育支援員養成講座

文科省が推奨している家庭と地域・学校をつなぐ家庭教育支援チームの中核となり、各市町村での子育て・家庭教育支援の充実に寄与する者を鳥取県子育て・家庭教育支援員として養成する。

《第1回》市町村の家庭教育支援充実に向けて 7月28日(火)
○県行政説明(社会教育課・子育て王国・いじめ・不登校対策センター)
○「地域の実情に応じた家庭教育支援の推進」(文科省 家庭教育支援室室長)

《第2回》保護者へのかかわり・支援方法等 9月16日(水)
○傾聴とカウンセリングマインド 臨床心理士 小林幹子
○守秘義務の理解と対象家庭の支援について 県福祉相談センター長

《第3回》地域人材を活かした子育て・家庭教育支援 10月19日(月)
○保護者の学び・つながりをつくる～友育・共育～TottoriMama`s 中井氏
○家庭教育支援チームの取組(米子市家庭教育支援チームとことこ・タムタム)

《第4回》子育て・家庭教育支援の充実に向けて 11月26日(木)
○家庭教育支援の多様な在り方
山口県教育庁 地域連携教育室 室長・社会教育主事
○家庭教育支援チームの体制づくり・予算から考える家庭教育支援

「とっとり子育て親育ちプログラム」 ファシリテータ養成講座・フォローアップ研修会

「とっとり子育て親育ちプログラム」のファシリテータ(進行役)として、地域における家庭教育支援の中核となる人材を育成し、県内全域に支援者の輪を広げる者を養成する。

ファシリテータ養成講座・ フォローアップ研修会(第1回)

【講義①・演習①】
ワークショップによる家庭教育支援の意義
【演習②】ファシリテータとしての活動①
【講義②】私にもできるファシリテータとは

ファシリテータ養成講座・ フォローアップ研修会(第2回)

【講義③】ワークショップとコミュニケーション能力の育成
【演習④】ファシリテータとしての活動②

ファシリテータ養成講座・フォローアップ 研修会(第3回) 12/11(金)

【講義④・演習④⑤】カウンセリングマインドを活かしたファシリテーション
独立行政法人教職員支援機構
つくば中央研修センター長 清國 祐二 氏

各市町村の子育て・家庭教育支援取組



子育て・家庭教育支援員養成講座《第1回》〈市町村の家庭教育支援充実に向けて〉〈7月28日〉

- 行政説明 「県の家庭教育支援について」社会教育課
 - ・鳥取県のめざす支援体制～未然予防としての家庭教育支援・家庭教育支援チームの活用～
 - 「子育て王国 鳥取県の取組」子育て応援課
 - ・子育て支援事業の家庭教育支援チーム形成・活動への活用
 - 「鳥取県の不登校の現状と課題、教育相談体制の充実にについて」 いじめ・不登校対策センター
 - ・相談できる環境の重要性～子どもも保護者も自己肯定感を高めることが大切
- 講演 「地域の実情に応じた家庭教育支援の推進」

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 家庭教育支援室長 唐沢 裕之 氏

- ・今後の家庭教育支援の方向性 3つのワークをキーワードに展開
- 「家庭教育支援チーム」の構築(チームワーク)
- 「切れ目のない支援」の実現(ネットワーク)
- 「アウトリーチ型支援」の推進(フットワーク)

<参加者より>

- 妊娠期から切れ目ない支援が大切で、講座を開くだけでなく、SOSを出せずに孤立している家庭に出向いて支援をしていくことが必要だと考えた。
- 家庭を取り巻く環境の変化、多様化を知り、家庭教育支援の重要性を強く感じた。一方通行や押し付けにならないように気を付けながら、地域で支援をしていきたい。
- 全国の取組を見ると、福祉・教育・地域の連携により活動が展開している。本市では、福祉部局で家庭教育支援をしている。どのように学校や地域と関わっていくことができるのか、現在の取組を整理するとともに考えていきたい。



コロナ禍で新しい生活様式による、初リモート講演でした。

ファシリテータ養成講座兼フォローアップ研修会《 第1回 》(講義①②、演習①)

【講義①・演習①】「ワークショップによる家庭教育支援の意義」

・ワークショップによる支援の方法やねらいについて

【演習②】「ファシリテータとしての活動①」

中部教育局 徳永係長

- ・安心・安全なワークショップを実施するための準備や確認
- ・アイスブレイクを小グループで演習・技能習得

【講義②】「私にもできるファシリテータとは」

・ファシリテータの役割と、進行のノウハウについて



参加

尊重

守秘

<参加者より>

- アイスブレイクが楽しく、児童クラブや親の集いでも使えると思いました。
- ファシリテータ自身も楽しみながら、参加される方が来てよかったと思ってくださるような活動にしたいです。
- コロナ対応の中でのアイスブレイクの方法がとても分かりやすく、これならできそうだと思います。
- 改訂版のめざすところも、改めて学ぶことができ良かったです。
- ファシリテータの役割は理解できましたが、実際にできるのかなと不安です。

子育て・家庭教育支援員養成講座《 第2回 》(保護者へのかかわり・支援方法等)〈9月16日〉

○講義・演習

傾聴とカウンセリングマインド 臨床心理士 小林 幹子 氏

・カウンセリングマインドの基本的態度「受容」「共感」「傾聴的態度」

すでにできていることを確認・評価して+少し「できそうなこと」を一緒に考え、ヒントを伝えていくことで自己肯定感につながる。

○講義・演習

守秘義務の理解と対象家庭の支援について

鳥取県福祉相談センター 所長 川本 由美子 氏

・個人情報に係る留意点(必要な範囲で情報収集、情報共有の仕方、不要な情報の処分)

・必要な支援へのつなぎ役に。自らの力で選択、解決していくように見守る姿勢も大事。

<参加者より>

- 共感することだけでなく、相手の言葉からできていることを見つけて相手に気づいてもらえるように返すことは大変大事なことだと思った。自己肯定感も高められ、前向きに自身を見つめられるきっかけになると感じた。また、その行為こそが「応援者」として寄り添うことになれるのではないかと励まされた。
- 相談支援において、悩みや困りごとに対する解決方法や良いと思われる選択肢が分かっているにもかかわらずそれを押し付けるのではなく、相談者が自ら答えを導き出すようヒントや情報を与え、相手を信じて待つことが求められる、解決を急ぐと失敗するという事に気付いた。
- 守秘義務を守るためには、個人情報メモとして残したものを持ち帰らない、電話中での職場内の会話に気をつける等、職場での日常ルールや留意点が参考になった。



「傾聴」を実践し、保護者に「寄り添う」ことを学びました。

子育て・家庭教育支援員養成講座《 第3回 》（地域人材を活かした子育て・家庭教育支援）〈10月19日〉

- 講演「私たちの子育て～友育・共育～」Tottori Mama's 中井みずほ氏
 - ・交流・関係づくり「知ろうとすること」、「お互い様」を大切に。地域の中で何かあったときに頼れる人がいる安心感＝子育てしやすい地域
- 説明 家庭教育支援チームについて①
 - ・家庭教育支援チームへの期待
(地域の身近な存在として、保護者と同じ目線で寄り添う支援が必要)
- 実践発表「保護者に寄り添い続けて」
米子市家庭教育支援チーム とことこ・タムタム
 - ・地域の実情に合わせた支援を地域で自主的に行う。
社会の変化にも対応して、「タムタムスクールWEB版」を実施。
 - ・支援者と行政（担当者）がよく話し合っ、保護者に寄り添い続ける支援の在り方を模索している。



- 子育て中の保護者に寄り添った自然なかかわり方、リフレッシュできる時間づくり(預け預かりあい)、参加者の言葉(意見)が生かされている空間づくりが素晴らしいと思った。
- 米子市家庭教育支援チーム「とことこ・タムタム」の支援員の方の熱い思いや工夫や苦勞を知ることができた。
- 子育ては地域づくりであり、小さな実践の積み重ねが大きな成果につながっていると感じた。
- 行政職員と支援チーム員との連携・協働が大切だと感じた。
- 「地域のつながりが、子育て支援につながる」と気付いた。

ファシリテータ養成講座兼フォローアップ研修会《 第2回 》（講義③、演習④）

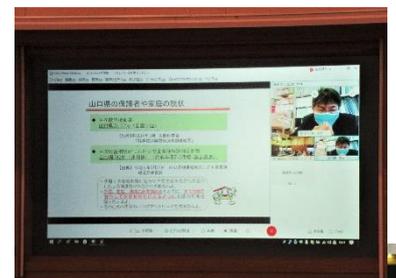
- 【講義③】「ワークショップとコミュニケーション能力の育成」西部教育局 下前係長
 - ・ワークショップの実施にあたっての考え方やコミュニケーション能力を育成するための方策について
- 【演習④】「ファシリテータとしての活動②」ファシリテータ：西浦公子さん
 - ・「とっとり子育て親育ちプログラム」を参加者の立場で体験

- 人の意見を聞くのが楽しかったし、自分の意見を言うことも同様に大切だと思った。このプログラムは、両方体験できるから楽しいのだと思った。
- ワークショップにおけるファシリテータの役割を確認し、コミュニケーションスキルを高めていきたいと思った。
- プログラムのねらいに沿った進め方・雰囲気作り等を学んだ。



子育て・家庭教育支援員養成講座《 第4回 》（地域人材を活かした子育て・家庭教育支援）〈10月19日〉

- 講演 「家庭教育多様な在り方」
山口県教育庁 地域連携推進室
主査 青木 厚治氏 社会教育主事 岡嶋邦彦氏
 - ・地域の実情に応じ、地域学校協働活動の1つとしての家庭教育支援
- 説明 家庭教育支援チームについて②
 - ・家庭教育支援チームの取組に向けて・組織づくりを進める方法
チームの目的を明確にし、切れ目ない、きめ細やかな顔の見える
子育て・家庭教育支援を実施 していきましょう！！
- 説明 予算から考える家庭教育支援チーム
 - ・家庭教育支援に関する補助金の補助対象となる事業内容の紹介等



- 多様な家庭教育支援の在り方を教えて頂いた。中学校区での取組の実情に多様な考えがあることを知り、改めて、山口県の取組の柔軟性に心を動かされた。横のつながりを改めて考えてみたい。
- 中学校区での地域協育ネット、学校内子育て広場等、具体的に実践例を挙げて説明いただき分かりやすかった。ガイドライン等を熟読して、今後の活動につなげたい。
- 地域学校協働活動としての「やまぐち型家庭教育支援チーム」の体制づくりやPTAと連携した家庭教育支援の在り方について学んだ。保護者同士の縦と横のつながりづくりをつくることと、継続的な家庭教育支援体制をつくることで、保護者が安心して家庭教育ができる環境や地域の大人同士のネットワークが構築され、学校教育の充実や学校不適應への対応につながっていると理解を深めました。

地域の実情に合わせた子育て・家庭教育支援がポイントだね。



